

# たべた聖天

**真** 壁町塙世の八柱神社は、もとは、真言宗のお寺で、「聖天様」と呼ばれ親しまれていました。それが、明治の初め、ある事情で、寺が無くなり、かわりに八つの神社が合併されて八柱神社となったのです。

そのむかし、このお寺に、お酒の好きな和尚さんがおりました。

一日のおつとめが無事終ると、ご本尊の聖天様に杯をあげ、必ず、「聖天様、どうぞ召し上がり下さい。」と言ってから、お酒を飲んでおりました。

ところが、この寺で修行している小僧も、大の酒好きだったので、

ある晩、いつものように、町に酒を買いに行った帰り道、なぜかその日に限ってお酒のにおいが気になり、我慢できなくなっていました。

(ほんの少しなら、ばれないだろう。

それに、今日は、いつもより

量が多かったから……)

そう思うと、小僧は、桜川の堤に腰をおろし、笹の葉で杯を作り、和尚さんのまねをして、「聖天様、どうぞ

召し上がり下さい。」と言って、から

何杯かのお酒を飲み干しました。

ひさしぶりの酒で小僧は、いい気分になって

お寺に帰って行きました。

小僧は、和尚さんに気付かれはしないかと心配でしたが、

和尚さんはいつものように、聖天様の前に座り、杯をあげました。

小僧がホッと胸をなでおろしていると、奥の方から「たべた聖天、たべた聖天。さつき堤の上で、小僧さんにもらったから、もうたくさん。」という声が聞こえてきたのです。

